

不断に精進せよ

学校長 太田 清史

本校が大正十二年に「大谷中学校」として新発足した際、第九代谷内正順校長により制定された四つの校訓の第四が、「不断に精進せよ」です。

仏教寺院では、新年式のことを「修正会しめしょうえ」と呼び、新年を迎えられたことを仏祖に感謝する法会を営みます。本校でも教職員と多くの生徒の参加を得て、一月七日午前に講堂「樹心閣」において勤修しました。そして私自身は、本校の「樹心」の精神を、どこまでも求め続けることを、年頭の挨拶において誓約いたしました。

第二次大戦下、ナチス強制収容所から奇跡の生還を果たしたユダヤ人精神科医のフランク博士は、体験記録『夜と霧』の中で、「人生から何をわれわれはまだ期待できるかが問題なのではなくて、むしろ人生が何をわれわれから期待しているかが問題なのである」と語っています。言い換えれば、生きる目的を持っていないものは、事と次第によっては生き切れない事態に直面しかねない、ということ

本校の校訓「不断に精進せよ」とは、単なる努力勉強主義を掲げるのではなく、「精進」の目的こそが、フランク博士言うところの

「期待されている自分」を明らかにすることを意味しているのです。

そしてその答えは、まさに「樹心」の精神の中にあります。親鸞聖人の信仰告白である「樹心弘誓仏地」の語は、自分自身の思いを超えて、永遠の過去、無限の彼方から、私一人を無条件に生かそう生かそうという仏のいのちの働きかけの中に、自らのこの世における役割を見出し、「よき世の人」として、個性に応じた命の躍動を果たしていかうというものです。

そういう役割を持った掛け替えない尊いのちを生かし切るために、「不断に精進せよ」という本校の校訓があるので。

さて本年、本校を巣立っていく卒業生の皆さんには、希望の進路に首尾よく進めたことを願うばかりです。保護者の皆さんと本校の教職員は、皆さんに対して物心両面にわたって、十分な支援を下さったことと思えます。しかしそれ以上に、人間として生かされていくことに大いなる喜びと「よき世の人となる」という本来の使命を胸に、さらに大きな未来に向かって不断に精進していかれんことを期待します。